

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171600240		
法人名	社会福祉法人 江差福祉会		
事業所名	シルバーハウス ケープ赤石		
所在地	爾志郡乙部町字元和84-8		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>恵まれた自然環境の中で、屋外での食事会、お茶会等。又、散歩をし花を愛で、畑でのトマト、ジャガイモ、トウモロコシ等の植付けから、草取り、収穫まで入居者、職員一緒にの作業。そして新鮮な収穫物を食すること。</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171600240&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年11月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>乙部町の北部にある元和台海浜公園は、広大な芝生が広がり、レストランや展望台などがあり、夏は観光客で賑わっている。その側に、窓辺に観葉植物が飾られている洋館風の建物が当事業所である。旧ペンション跡をグループホームとして利用しており、総ヒノキ造りの機能訓練室は以前の大広間で、当時の賑わいを感じられる。家賃が無料で食材費も安く抑えているのが特徴であり、職員と利用者は家庭菜園で10種類以上の野菜やいちご、ぶどうなどを育て食材として活用しており、利用者の五感を刺激し生きがいとなっている。職員は、一人ひとりのできること、できないことを見極めながら、本人本位の支援を心掛けており、家庭的な事業所である。</p>
--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人のプライバシーを念頭に置き、地域における認知症ケアの専門事業所としての役割を果たす事、入居者さんが自宅のように暮らせるホームであり続ける。	住み慣れた地域で安心した暮らしと家族の負担の軽減を取り入れた柔軟な支援を事業所の理念とし、職員会議で意見の統一を図っている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会での花見、敬老会等の行事へ参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町の文化祭にちぎり絵やチラシで作った花瓶などの作品を展示したり、町内会の行事にも積極的に参加している。事業所前でのソーメン流しや食事会には地域の方や子供達が来ており、地域との交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	乙部地域包括支援センター等と協力し、講演や認知症家族との話し合いに参加している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では運営報告が中心となり、議題が限定的になりがちな為意見交換をして地域との交流拡大へ繋げていきたい。	運営推進会議は年3回実施している。評価の結果報告や活動報告、利用者の暮らしの様子を報告しているが、参加者からの意見や要望はなく、双方向的な会議には至っていない。	行政関係者や地域の方々に運営推進会議の理解と協力が得られるよう、工夫されることを期待する。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	乙部町ケア会議に参加し情報交換、意見交換を行わない連携を取っている。	町担当者とは、ケア会議や介護保険関係、入居についてなど、常に情報交換や意見交換をしている。管理者は町の依頼で「認知症について」の講師となり、啓発に努めており連携を取っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしていない。	身体拘束と虐待防止の勉強会を事業所内で実施し、職員の共有認識を高め、拘束をしないケアを実践している。日中は居室や玄関に施錠することなく、自由な暮らしを支援している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止、拘束禁止の研修会へ参加して職員会議にて報告、話し合っている。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に後見制度を必要とする入居者がいないため活用されていない。また、学ぶ機会もあまり持っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の権利等を渡し書面、口頭で十分な説明を行なっている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者個々の意見を反映している。ケープに來所して頂いた時に日常生活や状態等を話している。意見等もその時に聞いている。	家族の訪問時や遠方の家族にはホーム便りと共に要望や意見を伺い、出された意見は職員会議で検討し運営に反映させている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議、職員会議の席上、或いは個別の面談等の中での意見を運営に生かしている。	職員会議や個別に相談がある時に職員の意見、アイデアを聴いて運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として、人事考課の準備などを行っているが実施には至っていない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	檜山支庁、南北海道GH協議会の研修会に参加出来るよう配慮している。また、研修内容について回覧、報告等により情報の共有をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	檜山管内ケアマネージャー連絡会、南北海道GH協議会に参加し情報の交換等を行なっている。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人と面談し話しを聴く機会を設けている。他の施設に入居、入院している方は直前まで会う機会は少ない。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安なく生活出来るよう事前に家族の方の相談を聴き説明している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者本人、家族と面談を必要としている支援内容の把握に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の話しを聞くことにより、新たな一面が見られたり、それを活かそうとケアプランに取り入れたりしています。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に入居者の方の情報を話し、現在の問題点について共に共有し協力を仰いでいる。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が尋ねてきたり、病院受診も同じ地域の知った人達が通院する時間に合わせるなどしている。	家族の了解を得て、知人の通院時間に合わせて受診に出かけたり、友達が訪ねて来ることもある。利用者の希望で懐かしい港や柿の木を見に行くなど支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合えるよう料理の下ごしらえ等支援を行なっている。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、特養へ移った人などとも、面会、見舞いなどを重ねている。家族から、野菜、果物の差し入れがあるなど良い関係を保っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に意向を把握するよう努めています。特に本人の口から出た言葉を大切にしています。	利用者の動作や表情に変化が見られた時に声かけをして思いを把握し、支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまで暮らしてきた事を活用し、それを踏まえてサービス、支援しています。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人一人の状態を把握しながらサービス、支援しています。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議時に何が問題かを話し合い、それをケアプランに反映させている。また、問題が発生した時は都度話し合いの場を設けている。	職員は日々の関わりの中で「介護計画実施チェック表」に利用者の状態を精細に記録し、ケアマネジャーは自宅を訪問して家族の要望を聴き、担当者会議で検討し、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや変化等があった場合は常に経過記録に記入するようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町民文化祭の踊り見物、法人内の他の施設との連携、特養との交流など多様なサービスを心掛けている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、警察、消防などの協力を得ているが、社協(社会福祉協議会)との連携を深めていきたい。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の病院受診を原則としており、良い関係を築いている。また、急変時等にも充分な対応を下さっている。	町立病院を主治医としている利用者が多いので、通院支援、受診支援をしているが、遠方のかかりつけ医については、原則、家族の同行を依頼している。不可能な時には職員が代行することもある。	

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所としては看護師の確保はしていない。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の居る入居者さんは本人、家族の意見を交えて病院と繰り返し話し合い、全員で方針を決めて働きかけている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針は定められていないが、家族の意向を汲み入れてケースバイケースの対応を行なっている。	終末期に向けて、早い段階から家族の意向を把握しているが、医療機関や特別養護老人ホームへの転居を望む家族が多く、職員間で情報を共有している。個々の事情により柔軟な対応をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の講習を受講し、会議にて報告し職員間で学んでいるが力量不足。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は定期的に行ない防災意識を高めている。 非常時には近所の方からの協力を要請している。	年2回消防署の協力で、隣接の事業所と合同で防災訓練を実施している。緊急夜間連絡網には地域の若い世帯が協力を承諾し訓練に参加している。職員は、消防署が作成したDVDを参考に勉強会を実施している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、その時その言葉に合った声掛けや対応を心掛けています。	利用者の人格を尊重し、個々に合わせた声掛けや対応を工夫してケアをしている。個人の記録は、一定の場所に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話を大切に本人の言葉を大切に受け止め、声掛けや確認等も会話に交えて行なっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者さんの希望を優先し支援しています。時には時間上急がせる事もある為反省点として考慮して行きたいです。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服を着用しがちな為、声掛けては別の服を出したり、外出時の身だしなみの声掛け対応を行なっています。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物、行事等でその方の好物を出すことにより喜んで頂いています。 食後には食器洗い等、個々に出来る事を行なって頂いています。	利用者が家庭菜園で収穫した多種の野菜は食材として使用し、一緒に調理したり、盛り付けをしている。昔、使用していた同型の包丁で馬鈴薯の皮をむく時は、生き生きとした姿である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食べて頂けるよう工夫して対応しています。本人の嗜好も取り入れています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施し、状態も確認しております。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツ使用の入居者さんを布パンツに替えて貰ったり、定期的にトイレ誘導を行ったりしています。	利用者の動作やサインを常に観察し、排泄チェック表に記録して、時間誘導や声かけをしている。体操、散歩、畑仕事などで、便秘薬が必要であった利用者を改善につなげるなど、自立に向けた支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為薬の調整、水分摂取をし予防に取り組んでいます。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人のその日の状態により、入る順番を調整しています。	入浴は週2回を目安とし、利用者と相談して順番を調整しながら、楽しく入浴ができるよう支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況により対応しています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の入居者の方の薬の用法、用量を理解して支援しています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に役割があり、それを行なって頂く事により、張り合いのある日々を過ごして頂いています。		

シルバーハウス ケープ赤石

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、できるだけ散歩等で外出する機会を増やしています。また、買物や民謡等を聴きに出かけたりするよう心掛けています。	事業所の周辺は公園の広大な芝生が敷かれ、地元の神社もあるなど、散歩に最適な環境である。家庭菜園や買い物、民謡を聴きに行くこともあり、外出の機会が多い事業所である。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事により、その使用目的等を考え日々楽しく暮らして頂いています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば家族等へ電話をしております。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事等で撮った写真を飾る等して工夫をしています。	事業所内は窓辺に多種の観葉植物があり、育てた花が飾られ、利用者が大好きな民謡が流れている。居間の壁にちぎり絵の作品や写真が飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自然と決まった居場所ができてきている。特に不都合がなければ施設として干渉はせずにいる。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に今まで使っていた馴染みの物を置く事により、安心感を持って暮らして頂いています。	居室は畳敷きで床の間のある和室に布団を敷いたり、ベッドを持ち込んだり、仏壇や家具などがあり、一人ひとりが居心地よく過ごせるよう工夫がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に暮らして頂けるよう廊下に手摺りの設置をし、出来るだけ自分の力で歩けるよう促しております。		

目標達成計画

事業所名 シルバーハウス ケープ赤石

作成日：平成 22 年 12 月 3 日

市町村届出日：平成 22 年 12 月 6 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催、家族の出席が少なく、報告の場となっている。	・会議開催の回数を増やす。 ・会議のメンバーを増やす。 ・意見や要望の出る会議の場とする。	・「会議」という言葉で堅く考えないように、外部評価の結果と合わせて、家族に説明する。 ・現在の会議出席者に新しい人を推薦、紹介していただく。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。